

県央圏域重点取組方針進行管理表

重点課題1	脳卒中
-------	-----

I 施策の展開(目標:「脳血管疾患の死亡者を減らす」)

	目標(数値目標)	目標(値) 【平成29年度】	実績数値又は施策の 進捗状況(実績)
1	総合的な健康づくり 1 特定健康診査実施率※を増やします。 (H22: 44.7%) ※受診率(市町村国民健康保険) 2 特定保健指導実施率※を増やします。 (H22: 17.0%) ※受診率(市町村国民健康保険) 3 1日当たりの平均野菜摂取量を増やします。 (H20: 286.7g)	50% 25% 300g	46.2%(H26年度) 37.1%(H26年度) 336.4g(H27年県民健康・栄養実態調査結果)
2	高血圧 1日当たりの食塩平均摂取量を減らします。 (H20: 10.5g)	10g未満	10.4g(H27年県民健康・栄養実態調査結果)
3	禁煙 1 敷地内禁煙を実施している病院数を増やします。 (H20: 2病院) 2 健康づくり支援店(禁煙・分煙部門)の数を増やします。 (H23: 21店)	6病院 35店	4病院(H28.3月末現在) 36店(H28.3月末現在)
4	連携体制 地域連携クリティカルパス実施医療機関を増やします。 (H23: 4病院5診療所)	5病院7診療所	4病院6診療所(H28.3月末現在)

施策 (県・市町村)	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合的な健康づくり <ul style="list-style-type: none"> ○ 職域関係者と連携し、特に中小事業所の労働者への働きかけを行う。 ○ 特定健診実施率向上に向け、がん検診が同時に受診できる半日ミニドックの回数増や働き盛り世代が受診しやすいよう休日健診を実施する。 ○ 高血圧・高血糖の受診勧奨レベル、CKD 専門医レベルの未受診者を対象とした重症化予防訪問事業を実施する。 ○ 運動習慣定着のため、手軽にできる筋トレメニューを開発する。 2 高血圧 <ul style="list-style-type: none"> ○ 配達弁当業者及び事業所給食施設に対し、ヘルシーメニューの提供を働きかける。 ○ 高血圧に関連する生活実態・生活習慣に関する調査と分析、保健指導を実施する。 ○ 食生活改善推進員の活動として、減塩をテーマとした教室・講習を実施する。 ○ 健診結果症度2以上で未治療の者への訪問指導や生活習慣病予防のための訪問事業を実施する 3 禁煙 <ul style="list-style-type: none"> ○ 飲食店及び病院に禁煙・分煙宣言施設への登録を働きかける。 ○ リーフレット等を作成し、食育事業の中に高校生へたばこに関する知識を啓発する。 ○ 特定健診・保健指導時や講演会・教室等で喫煙・受動喫煙による健康への影響や防止に必要な知識の普及啓発を実施する。 4 連携体制 <ul style="list-style-type: none"> ○ 脳卒中情報システム、在宅医療・介護連携推進事業を通して連携の強化を図る。
-----------------------	---

II 評価等

<p>施策に対する 分析・評価</p>	<p>【全体的な評価】 全死因のうち脳血管疾患による死亡者の割合（％）は、H22 年度以降減少傾向※にあり、各種施策の展開により一定の効果を挙げていると思われる。 ※H22：14.21、H23：13.36、H24：12.34、H25：12.30、H26：12.85、H27：11.78</p> <p>【個別施策の評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ○ 関係機関と連携して実施したことで協力・連携の可能性について理解が深まった。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 受診率向上・未受診者対策を実施した結果、受診率が向上した市町村がある。 ○ 重症化予防訪問事業では、受診につながったり、生活習慣改善の動機付けになった反面、自覚症状がなく受診や生活習慣の改善につながらず、毎年対象になる人もいる。 2 ○ 事業所給食施設では、ヘルシーメニューの取組が進んできているものの、給食数の少ないところは提供者・利用者の健康に関する意識が低い傾向であった。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 塩分を過剰摂取している実態を見ることができ、性別、年代別によって塩分の摂取傾向が明らかになった。 3 ○ たばこの害に関するリーフレットを見た高校生の理解度についての把握が不十分だった。 <ul style="list-style-type: none"> ○ COPD 検診が COPD の早期発見、早期治療、禁煙につながっている。 ○ 女性では、妊娠届出時に喫煙を一時中止しても産後に再開することもある。 4 ○ 多職種の連携強化のための取組は行ったものの、脳卒中連携パスの活用に向けた働きかけは実施できなかった。
<p>課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ○ 今後も関係機関と連携して、様々な方面から労働者への働きかけを充実させていくことが重要と考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 特定健診受診率に関するデータを分析し、現状の把握を行い、さらなる受診率の向上に取り組む必要がある。 ○ 特定健診における働き盛り世代の健診受診率が低い。 ○ 商工会健診では、野菜摂取不足がみられるため、今後も継続して食事指導を行う必要がある。 2 ○ 今後も、若年者への高血圧予防のための生活習慣改善の意識付けが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 減塩に対する行動変容を促すためのアプローチが必要である。 ○ 受療中で改善がみられない人に対する生活習慣改善の支援方法を検討していく必要がある。 3 ○ 店舗経営者や関係者から禁煙・分煙についての認識を高めてもらうため、機会を捉えて働きかける必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 非喫煙者が今後喫煙しないように、高校生が、たばこの害について理解を深められるようアプローチ方法の検討が必要。 ○ 喫煙、受動喫煙による健康への影響に関する知識の普及啓発を図っていく必要がある。 4 ○ 脳卒中連携パスの活用に向けた働きかけを行うことが必要である。
<p>今後の対応</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ○ 市町村及び職域の関係機関と連携した啓発・普及を継続して実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 特定健診受診率に関する分析結果を市民に周知し、特定健診の受診勧奨を行う。 ○ 働き盛り世代にも参加しやすい健診、講座等を開催する。 ○ 保健指導の資質向上のための研修会を開催するほか、指導媒体に工夫を加える。 ○ 手軽にできる筋トレメニューのリーフレット配布及び講習会を開催する。 2 ○ 配達弁当業者や事業所給食施設へヘルシーメニューの提供を継続して働きかける。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 高血圧に関連する生活習慣等の調査結果を広く周知し適塩に対して動機付けを行う。 ○ 個別支援では、食生活・肥満・アルコール・睡眠・ストレス等生活全般を振り返り、血圧との関連を理解することで、生活改善や受診行動につなげていく。 3 ○ 継続して禁煙・分煙宣言施設及び健康づくり支援店での禁煙・分煙部門登録の働きかけを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 受動喫煙防止の取組について、高校生などの若い世代や妊婦等に対して強化する。 ○ 禁煙したい人への支援として、希望者に禁煙外来等の情報提供を行う。 4 ○ 市町村及び関係機関と連携して、会議・研修会等様々な機会を捉え、脳卒中連携パスの活用も含め関係者の連携を推進する。